

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】(1階、2階ユニット共通)

事業所番号	2771000359		
法人名	医療法人博悠会		
事業所名	グループホームさくらんぼ		
所在地	大阪府大阪市西淀川区大野2丁目1番41号		
自己評価作成日	平成30年12月28日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGBビル大阪 4階		
訪問調査日	平成31年2月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの介護職員として、入居者とのなじみの関係性を重視し、できる事は何かと、入居者の有する能力を活かす取り組みやケアを実践しています。常に入居者の生活について職員間で話合っ介護計画の作成、実行、見直し、再計画のして計画の質の向上を図っている。また、法人内の病院、グループ法人の訪問看護ステーションと密な連携を取る事により、ホームでは実現し得ない迅速な医療的支援を実現している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地域医療を目指す医療法人が平成12年に開設した施設で、8年前に系列隣接して新築された鉄筋コンクリート造りの4階建ての建屋の1,2階の部分に移転した。施設法人の隣接の総合病院であり、主治医は病院の在宅診療専門医師が担当し、訪問の訪問看護ステーションが担当しているの、入所者はもとより家族にとっても安心であり、とっては心強い医療体制である。管理者は、約15年の介護経験があり、職員と力を合わせて利用者本位の介護を目指してに利用者が毎日の生活を楽しめるようなイベントや外出を増やしていきたいと意欲的である者は区内のグループホーム連絡会に積極的に関わり情報を得て、施設運営の向上を目指し員は全員が常勤職員で、勤続年数の長い職員が多くチームワークが良い。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を基本として事業所理念を掲げ、理念実現の為の介護計画立案に積極的に職員の意見を取り入れています。	法人の理念を踏まえた事業所理念が玄関入り口や事務所に掲示され、職員は朝の申し送りなどで日々確認し実践に繋げている。毎月法人全体の朝礼が隣接の本部で行われ、そこでは法人理念を唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域が主催する盆踊り、お祭りに参加しています。 また、車両を使用して積極的に区内のイベントへ参加しています。	事業所は国道に面し周囲は工場に囲まれているので近隣に住宅は少ないが、近くの公園での夏祭りの盆踊りに行ったり、区内の社協の「ふくふく祭り」に参加している。近くの神社の秋祭りでは子供みこしが事業所まで来て入居者は子どもたちとの交流を楽しんでいる。	現在、運営推進会議に近隣住民代表の出席がなく、地域住民との交流が途絶えている状況である。近辺には国道と工場やコンビニしか見当たらないが、地区の自治会長に呼びかけ、地域住民との交流に取り組み、相互理解が進むことを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	西淀川区が行っている認知症サポーター養成講座に参加し、地域の方に認知症を理解して貰うための活動を行っています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の活動内容や、職員の取り組み等を報告し、御家族様からの意見交換を行っています。	会議は、奇数月の最終土曜日に開催している。出席者は家族と地域包括支援センター職員と管理者で地域住民の参加はない。事業所から運営状況や事故などの報告と今後の事業予定などの説明があり、家族からは要望や意見が出されている。前回の会議では、大阪北部地震の発生を受けて津波対策について活発に意見が交わされた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	3か月に1度開催されている西淀川区のグループホーム連絡会、居宅介護支援事業所連絡会に参加させて頂いています。	管理者は、区の地域包括支援センター職員も参加のグループホーム連絡会議に参加し中心的な役割を果たしグループホームの運営について活発に情報交換したり、ケアマネは居宅介護支援事業所連絡会にも出席し区内の地域ケアに積極的に貢献している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を開催して理解を深めるようにしています。身体拘束を行う際はルールに沿った対応をしています。	事業所では身体拘束等の指針を取り決めている。管理者は法人全体での身体拘束委員会に加わり勉強会に参加している。事業所内では職員と身体拘束の是非についての話し合いをしている。現在は身体拘束はしていないが、転倒防止のため家族の了解の下で人感センサーを居室につけているケースや鈴をベッドにつけているケースが数件ある。玄関は国道に面していて危険なため施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人各事業所で身体拘束防止委員会を構成、運営しており、勉強会の開催、話し合いを行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネージャーは自ら学ぶことで知識を得るようにしています。必要に応じて助言や、資料の提供を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項については必ず文章と口頭による説明を行い、きちんと理解して頂けるような対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情に関しては声に出しやすい雰囲気作りを心掛けており、頂いた意見は施設内だけではなく、法人全体で考えて対応する様にしています。	利用者とは日々の生活の中で要望を聴くようにしている。家族には、運営推進会議や来所時に意見や要望を聴くようにしている。意見箱も玄関に設置している。来所しない家族には電話をしている。最近では家族より施設側の入居者の寝具の無断購入に関する苦情があり、今後の教訓としたケースがあった。また家族には、「さくらんぼだより」を発行して入居者の様子を知らせて喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	おおむね、月に1回、職員との話し合いの場を設け、問題点に関しての意見交換を行っています。	毎月、2ユニット全体会議を開催し管理者は職員と入居者のこと、ケアの内容のこと、行事のことなど様々なことを話し合っている。個々には日々の申し送り時や業務中で聞いたり、8月の職員面談で意見や要望等を聞いている。職員が「申し送り事項」に意見を記入して情報共有し運営に反映するケースもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で様々な事業所を運営しており、職員のキャリアアップやライフスタイルの変化に対応できるような体制を整えています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で定期的な勉強会を開催し、必要に応じて外部研修が受けられるような体制を作っており、職員のキャリアアップに繋がるような機会の提供を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3か月に1度開催されている西淀川区のグループホーム連絡会、居宅介護支援事業所連絡会に参加し、情報の共有を図っています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴や趣味に関する情報を本人や家族から聞き取り、話題に盛り込むことで不安を和らげ、楽しみを感じながら生きていくことの支援ができる様に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護計画作成時には本人・家族の希望や要望を聴取し、安心して生活して頂く為のケアを心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム内で全てが完結するのではなく地域の資源を活かしたサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリなどを通じた家事への参加や役割づくりを行っており、他者へ貢献する事での社会参加を図っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を重視し、イベント時の参加声掛けなどで関わって頂く機会を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩に出かける中で、近隣の方と挨拶など行い地域の一員としての関係継続を心掛けています。	馴染みの人や馴染みの場所は、入所時に本人や家族に聞き、フェースシートに記録している。併設のデイケアや老健の利用者である知人に会いに行く支援や知人、友人からの電話を取り次ぐ支援を行っている。法事や墓参りなどは家族が連れて行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症進行により意思疎通が困難になった場合でもスタッフが間に入る事によりコミュニケーションが取れるような工夫をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された場合でも必要に応じて、相談に乗るなど支援を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴、好みや好まない事、習慣や考え方等を把握し、本人の希望や意向をくみ取れる努力をしています。	入所前や入所時に本人や家族から聞き取りした生活歴、趣味、好みなど様々な情報をフェースシートに記録している。その後は日々の生活の中で聞き取ったり、意思を表出できない方には、家族から聞いたり職員が意をくみ取ったりしている。外出したいという要望にはできるだけ直ぐに行けるように支援をしている。すぐにはかなわないときも、後日必ず外出できる支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはこれまでの生活歴や職歴、本人の性格や趣味趣向などの情報を家族から頂くと共に本人との会話の中で把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は申し送り、介護記録等で入居者の心身状態などを把握しています。日常生活の中では、一人ひとりに合わせたコミュニケーションを周知し、楽しみや出番を見いだせるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時に関係者が集まって意見交換をする事が困難である為に、面会時や電話時に状態報告を行ったうえで意見を聞いており、ケアマネージャーが集約して立案に活かしています。	入所時のアセスメントシートを基に毎月のモニタリングでその後の変化を赤字で記入している。担当者会議は、家族や医師、看護師の出席が難しいときは事前に意見を聞いておき、ケアマネを中心に管理者や担当職員が出席して6か月ごとに開催して、介護計画の見直しをしている。変化時はその都度担当者会議を開き、見直している。いる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化などを細かく記録していく事で、介護計画見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物など、施設内で提供するサービス以外の支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民を本人の資源と考え、グループホームのケアを理解して頂ける様な環境づくりを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループ法人である【名取病院】【訪問看護ステーションなとり】と毎日健康状態の把握で連携する事によって迅速な対応ができています。	法人の以前からの在宅診療医を主治医としている人が多数を占めており継続して往診を受けていて、歯科は月2回の往診、精神科などその他の医療機関へは職員が付き添っていて、診療情報は家族に随時伝え適切な医療の支援をしている。看護師により毎日健康状態を把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	【名取病院】【訪問看護ステーションなど】の看護師と連携し24時間サポートしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	法人内の【名取病院】と密な連携を取っており、早期退院を実現できる体制作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り指針を作成しており入居時に説明し、現段階での最期のあり方を確認している。その後も状態の変化がある度に考えを聞いています。	契約時に家族や利用者に終末期の説明をして指針を作成し同意書をかわして、状態に変化があれば主治医より家族に説明して確認し関係者と連携して支援に取り組んでいる。今までに看取りの経験がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で事故対策委員会を開催しており、定期的な話し合いや勉強会を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っているが、近隣との協力体制を築くのはこれからという状況である。	年2回の消防訓練を計画し、今期は9月に1回目を実施し、3月に2回目の夜間想定訓練を予定している。防災マニュアルと緊急連絡網も整備されている。非常物品として非常食・オムツ・ランタンなどを備蓄し、水は屋上に給水タンクの用意がある。	年2回の避難訓練を実施しているが、近隣住民に呼びかけての訓練に至っていない。運営推進会議などで地域住民の参加を呼びかけ、地域の方と災害時の協力体制を構築することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けの方法や内容などに関しては年長者に対する尊敬の念を忘れない様にしており、間違いがないかスタッフ同士で確認しあっています。	利用者の尊厳を損なわないよう言葉かけに気を付け、目を見て話す・正面から話しかけることを周知している。法人の接遇の研修会に参加して知識を身に付け、職員間で気づいた時は注意しあっている。書類は施錠できるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動の前には必ず声掛けして本人の意思を確認し同意を得る様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な食事開始時間などは決まっているが、本人の気分や状態に応じて臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	昼間・夜間のメリハリをつけられる様に更衣はできる限り行っており、服を選ぶ際は本人に声掛けして確認を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の食器拭きなどを生活リハビリと考え利用者に参加してもらっています。	法人の厨房で調理された配食をキッチンで温め盛り付けをして提供されている。行事食やお好み焼きチェーン店のボランティアの出前の提供があったり、1か月に1度は利用者の好みを聞いて、おやつレクの機会をもうけていて利用者は楽しみにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を行い栄養状態の目安とし、看護師・医師へ報告する事で適切な対応が行える様に支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	法人内の訪問歯科指導のもと毎日の口腔ケアを実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、失禁状態にある方の排尿パターンを把握する事により適切なトイレ誘導が行える様にしています。	リハパンにパットの人が多数いるが排泄チェック表を参考に、声掛けや見守りをしてトイレでの排泄の支援をしている。夜間は定時交換や声掛けをして排泄の支援をしている。排便困難な人には薬を使い排泄のコントロールをして適切な支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り自然な排便が行える様にしっかり水分摂取を行って頂ける様に対応している。便秘時には医師と取り決めたルールのもと、緩下剤の服用を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	生活リズムをつくるため入浴日をあらかじめ決めてはいるが、毎日の健康状態や本人の意向により柔軟に対応しています。	週2回を基本にしているが、毎日の入浴も可能である。時間や利用者の体調を考慮して入浴支援をしている。拒否する人には無理強いしないで時間や人を代え工夫して清潔保持に努めている。好みのシャンプーを使ったり入浴剤や柚子湯・菖蒲湯など楽しんで入浴できる支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況や前夜の睡眠時間により、日中横になる時間を確保している。横になって頂いた場合も眠りすぎて夜の睡眠を妨げない様に時間を決めて対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬の情報をファイルに保管して、いつでも確認できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	意味のある時間が過ごせる様に手作業などレクリエーションを提供しているが、生活の場である事を考慮して無理強いしない様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望がある場合には付き添いの人員や車の手配などを行って数日以内に実現できるように支援しています。	近くの公園に散歩に出かけたりコンビニに好きなものを買に出かけている。買い物ツアーでスーパーにも出かけ、利用者の要望で個別ケアで車で外出している。家族と一緒に出掛け外出している人もいる。舞洲に花見に行ったり、近隣の神社に初詣に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所金庫で預り金を管理しているが、買い物へ行く際は財布に入れて携帯し、支払いなどができる様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	はがきを出す事や希望に応じて電話を掛ける支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自らの意志でトイレを利用して頂く為にトイレ扉に分かりやすい表示をするなど工夫を行っています。	リビングはすっきりとしていて台所を中心に居室と別れている。花を飾った食卓テーブル、ソファ、歌の本箱が置かれ、くつろげる空間が用意されている。壁には折り紙の作品が飾られ、加湿器で空調に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの机の配置を変えたりする事で工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた家具の持ち込みをお願いしており、本人が落ち着く生活環境の構築を心掛けています。	居室入り口に表札が掲げられドアには分かりやすく名前を明記している。部屋にはベッド・クローゼット・机・洗面台が用意されていて、テレビやタンス・冷蔵庫を持ち込んでいる。絵画を飾りカレンダーを掛け時計や手作りの作品を置いて、その人らしい部屋づくりをして居心地よく暮らせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見当識障害がある方にも理解して頂きやすいように表示を工夫する等行っています。		